

令和4年定例3月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質 問 の 相 手
今 田 光 弘	<p>小値賀町ふるさと留学制度について</p> <p>高校を存続させて人口減少を食い止め、町の存続にもつなげようと始まったこの制度。平成26年度から調査研究を続け、令和2年度にスタートして3年目を迎えようとしている。</p> <p>①寮が完成し、運営のソフト面も徐々に充実してきているようだが、一方で寮を運営管理するハウスマスターや調理スタッフの確保に苦勞していると聞く。スタッフの確保や質の向上は、留学制度の成功の可否を握る大きなポイントであるとともに喫緊の課題だと思うが、具体的な取り組みは。</p> <p>②「小値賀町ふるさと留学協議会」は、留學生の審査選定以外はあまり機能していないと感じる。いろいろ生まれる問題などを教育委員会で困ってしまわずに、協議会の力をもっと借りてはどうか。</p> <p>③留學生の受け入れは、ホストファミリーの中で一年間生活する「しま親」型で小学校6年生以上、入寮型は中学校1年以上で、期間の延長は可能だが基本は1年間。留学制度のうたい文句の一つにしている「小中高一貫教育」を1年間のふるさと留学にどのように生かすのか。</p> <p>④現在「しま親」は1軒だけ。町と町民が一丸となって留學生を受け入れないとふるさと留学制度の継続は難しいと思うが、町民の理解はあまり進んでいないようだ。オール小値賀町として町民の理解と気運を高める取り組みが必要ではないか。</p> <p>⑤以上を踏まえ、教育長のこの制度への思いを伺う。</p>	教 育 長